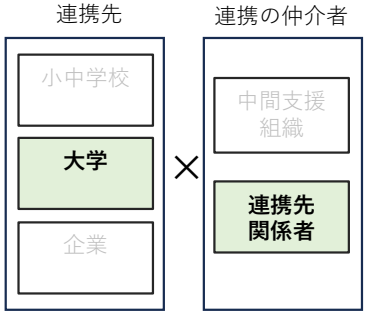
4 柴橋環境保全会（胎内市広域協定）（新潟県　胎内市）

取組のポイント

胎内市内に開校した新潟食料農業大学の構内に草刈りサポーター募集のチラシを掲示したことにより、大学生が草刈活動に参加するようになった。
ブログやSNSを活用した情報発信、地域のアルバイト時給を上回る時給の支給、草刈機の講習等のサポートにより、連携の継続・強化が図られている。



地区概要　※R3年度時点

・認定農用地面積91.66ha
（田90.94ha、畑0.72ha）
・主な構成員 自治会、女性部、
子ども会 等
・交付金 約４百万円（Ｒ２）
・取り組む活動　農地維持支払
資源向上支払（共同）

連携前の状況・課題

集落の少子高齢化や非農家世帯の増加により、地域活動に対する意識が希薄化し、農家のみによる保全管理が困難となる状況であった。

連携の契機

平成30年、胎内市内に「新潟食料農業大学」が開校。
大学構内に草刈りサポーター募集のチラシを掲示したことで大学生との連携がスタートした。

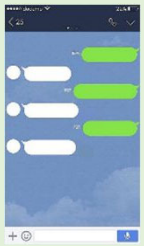
学生募集のチラシ

活動拡大の工夫

ネットを通じた情報発信

ブログやSNSを活用し、活動の様子やスケジュール等の情報を広く公開。また、SNSでは登録者への一斉連絡のほか、個別の問合せにも対応するため、参加者のリピート率も高い。

R5活動予定（ブログより）


SNSで一斉連絡（画像はイメージ）

十分な手当の支給

地域のアルバイト時給より高い活動時給(1,100円/h)を支給し、バイト感覚での学生参加を促進。
※新潟県の最低賃金(R4)は890円/ｈ

手厚いサポート

草刈未経験者でも気軽に参加できるように、防護具の貸与や研修会を開催。

草刈機の講習状況

連携後の活動実績等

・平成30年以降、延べ253名の大学生が草刈り活動に参加（令和5年10月時点）。

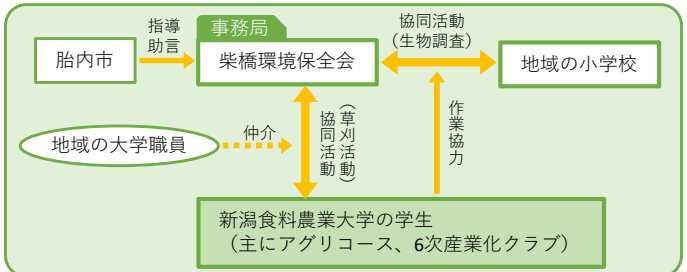
・生き物調査や収穫祭等の草刈り以外の活動についても、大学生が主体的に参加しており、連携活動の輪が広がっている。

・学生の受け入れ態勢を整えた結果、学生以外の非農家の参加も増加している。

学生が参加した草刈活動

学生が作成した「柴橋水辺の生き物図鑑」

体制図



外部組織との連携のプロセス

連携前の状況

- 集落の少子高齢化や非農家世帯の増加により、地域活動に対する意識が希薄化し、農家のみによる保全管理が困難となる状況。
- 地域の若者や移住者・地域外の者など「多様な主体の参画」による地域の活性化を模索していた。

ブログの開設（H28）

- 活動組織のPRを図るため、ブログを開設。当初は活動写真とコメントを一言添える程度の記事を投稿。

新潟食料農業大学の開校（H30）

- 胎内市内に新潟食料農業大学が開校。
- 集落在住の大学関係者を通じて、大学側と打ち合わせを行い、構内に時給を明記した草刈りサポーター募集のチラシを掲示。

受け入れ態勢の強化（H30）

- SNS公式アカウントを作成し、ブログと併せて活動予定を前広に周知するとともに、一斉連絡や個別の相談にも対応できる体制を構築。
- 参加者に貸与するための草刈機、安全具（ヘルメット、フェイスシールド、エプロン、すね当て）を整備。
- 草刈未経験者が安心して参加できるように、取扱研修会（座学・実技）を開催。研修会参加者にも日当を支払い。

収穫祭の状況①

収穫祭の状況②

生物調査の状況

その他の取組への展開（H31～）

草刈活動に参加していた大学生が、収穫祭や生き物調査の運営にも参加。

SDGsを絡めたアンケート

SDGsの観点も踏まえ、活動についての感想を大学生にアンケートで聞き取り。70%以上が卒業後も農村との関わりを続けたい回答。

収穫祭への作業協力（H31～）

大学生が地域住民向けの収穫祭に、準備・片付け、出し物のアシスタントとして作業協力。

取組の成果・今後の展望

草刈り作業から始まった大学生との共同活動が、収穫祭や生き物調査といったその他の活動の自主的な協力にも展開している。また、大学生の受け入れ態勢を整えた結果、それ以外の非農家の活動参加にもつながっている。集落住民も大学生との連携を好意的に受け止めており、引き続き、連携を深める方針。